

高等学校における事故防止情報の活用事例～学校事故対応研修～

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」）では、学校安全に対する取組に活用できる教材や資料を学校安全Webで提供しています。

今回は、令和4年9月27日（火）に宮城県古川工業高等学校（以下「古川工業高校」）で行われた教職員対象の校内研修（以下「研修」）の様子についてご紹介します。



メイン会場と他4教室（リモート開催）の様子

【研修目的・ねらい】

古川工業高校では、校内の全職員が学校の共通の教育課題を解決するために、共通のテーマを設定し、それを計画的、組織的に解決していく過程を通して教職員一人ひとりの力

量を高めることを目的とし、毎年実施しています。

今回の研修では、昨今の学校の管理下で発生している重大事故を受け、学校の管理下における事件・事故発生時の初期対応や事故防止対策等に関する知識を身に付け、教職員の資質の向上を図ることをねらいとし、全日制及び定時制の教職員を対象として行われました。

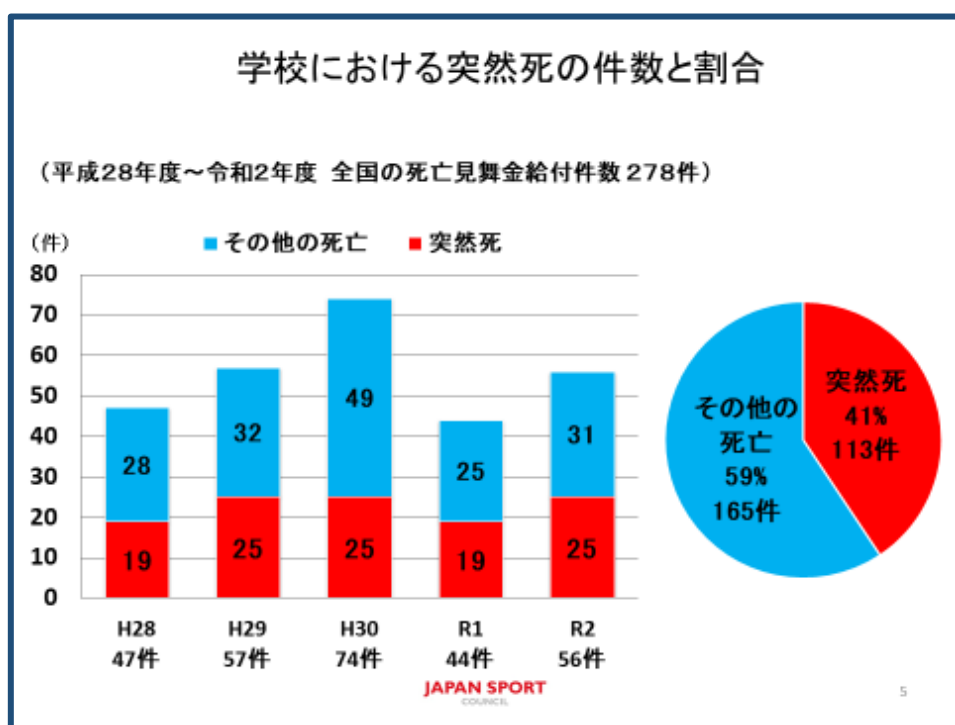
【JSCからの情報提供】

はじめにJSCにおける突然死の取扱い、全国と仙台支所管内（北海道と東北6県）の統計情報を基に学校における突然死の件数や発生場所、場合別の割合などの傾向を説明するとともに、AEDを使用することの大切さを伝えるため、映像資料（DVD「運命の5分間 その時あなたは～突然死を防ぐために～」）を視聴していただきました。

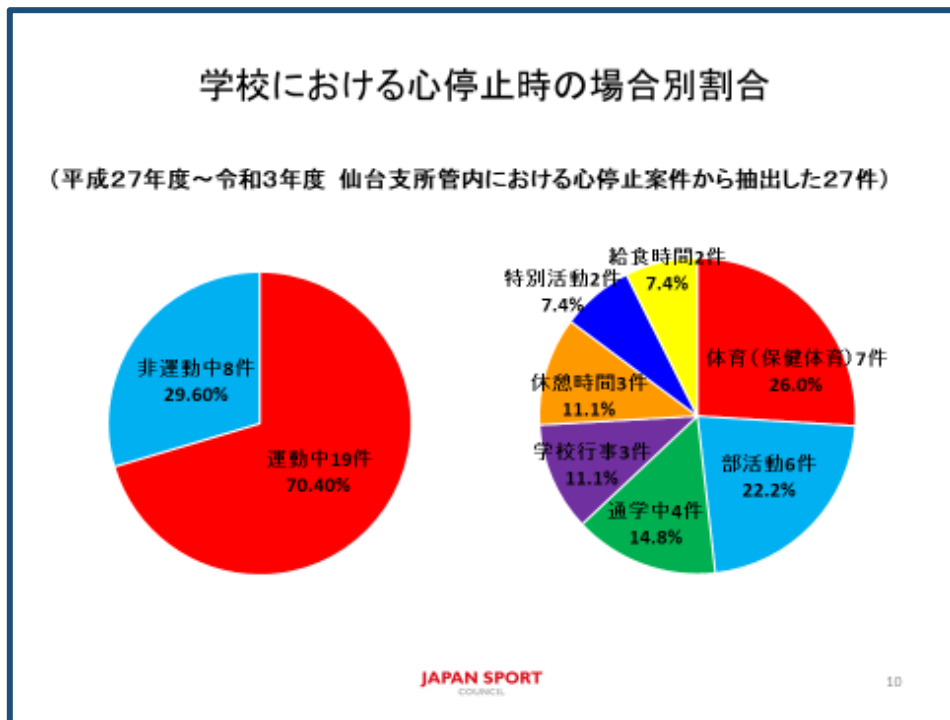
その後、学校の管理下で実際に起こった施設・設備の破損やサッカーゴール等の転倒、落下等による災害の事例を紹介し、災害を発生させないための対策と災害が発生した後の対応について説明しました。

資料の一部

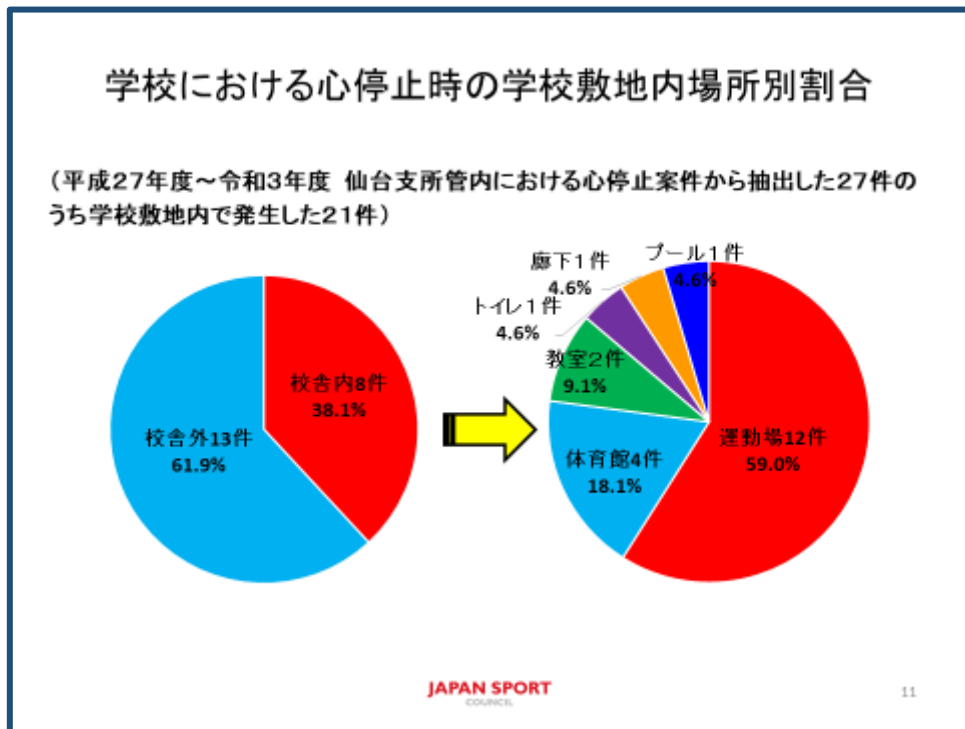
平成28年度～令和2年度 全国の死亡見舞金給付件数278件における突然死の割合



平成27年度～令和3年度 仙台支所管内における心停止案件から抽出した27件の発生
の場合別割合



平成27年度～令和3年度 仙台支所管内における心停止案件から抽出した27件のうち
学校敷地内で発生した21件の場所別割合



映像資料（DVD）「運命の5分間 その時あなたは～突然死を防ぐために～」より

- ・ 的確な状況判断
- ・ 迷った時には心肺蘇生とAEDの使用を！
- ・ 誰が何をすべきか明確な指示を！
- ・ 休みなく心肺蘇生を！
- ・ 日頃からAEDの場所を確認！
- ・ AEDを片道1分以内の場所に設置！
- ・ 日頃からAED使用法の訓練を！
- ・ AEDは到着後すぐ使用を！



AEDの電気ショックが1分遅れるごとに救命率は10%ずつ低下するよ！心停止から5分以内に電気ショックが可能な場所に配置しよう！！



～仙台支所よりひとこと～

【演習】

演習については、宮城県教育庁保健体育安全課学校安全・防災班の職員が担当し、1グループ4名～6名に分かれて行われました。

学校事故対応研修 ～学校事故の未然防止に向けて～

- 1 演習の進め方(5分)
- 2 演習(30分)
- 3 全体共有(5分)



みやぎ学校防災キャラクター
「まもっぺい」

1

2 演習

事故①「高校サッカー部活動中の熱中症事故」

事故発生時期	平成29年5月	被害生徒及び事故種別・被害程度	高校1年生男子1名 熱中症、死亡
活動種別	部活動		
事故発生の概要	平成29年5月、部活動顧問(サッカー部)の指導下で、ウォーミングアップ、基礎練習等で体を慣らした後、湖一周ランニング(約9.5km、40~60分コース)を行った。当該生徒は、学校まで残り200mの付近で意識を失い倒れた。救急搬送後、重度の熱中症による急性腎不全や肝機能障害の可能性ありと診断された。その後、高度医療を受けるために転院するが症状が回復することなく、多臓器不全により5か月後に死亡した。		

文部科学省「『学校事故対応に関する指針』に基づく詳細調査報告書の横断整理」(P.2、3)より

2 演習

事故の要因

安全計画・取組	<ul style="list-style-type: none"> ●事前の準備や注意喚起はあったがマニュアルは無く、1年生に配慮した練習計画もなかった。 ●体力や技術が未熟な低学年では、体力を段階的に養うことが求められるが、そうした指導計画となっていなかった。
校内体制	<ul style="list-style-type: none"> ●校外事故防止体制、結水体制が不十分だった。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ●事故前日と事故当日の最高気温(28.8℃)と前週の最高気温を比較すると6℃程度気温が上昇していた。
関係職員	<ul style="list-style-type: none"> ●顧問の名、マネージャー2名が裏後方に配置していたが、生徒個々への状況確認が不明だった。 ●暑くなることが見えながら運動を軽減しておらず、安全配慮が十分でなかった。 ●チームを3つにし、チームごとの順位の平均を出すことを指示しており、自分の成績がチーム順位に反映するため、生徒は途中で走ることをやめる判断が難しい状況であった。 ●結水、観察体制など安全確認や注意義務が不十分だった。 ●熱中症指針計を使用しておらず、熱中症リスクについて状況把握ができていなかった。
生徒・保護者	<ul style="list-style-type: none"> ●当該生徒は、中学3年の夏以降、受験によりほぼ半年間のブランクがあり、4月にサッカー部入部後も事故までの間、大半は軽めの練習がほとんどであった。

文部科学省「『学校事故対応に関する指針』に基づく詳細調査報告書の横断整理」(P.2、3)より

2 演習

未然防止及び事後対応について考える際は、以下の観点で考えてみてください。

m-SHELL	各要素の意味
安全計画・取組	学校安全のための研修や安全教育、マニュアル
施設・器具	授業や部活動で使用する施設や器具
環境	自然環境や影響を与える環境
関係職員	教員
生徒・保護者	生徒・家族
校内体制	校内体制や安全管理

はじめに、文部科学省「『学校事故対応に関する指針』に基づく詳細調査報告書の横断整理」に記載されている高等学校サッカー部活動中の熱中症事故事例を題材に、『未然防止』と『事後対応』について、色分けした付箋紙に個人の考えや意見を書きました。その後、グループ内で話し合いながら模造紙に付箋を貼り、出し合った意見を分類していきました。最後に、他のグループの模造紙を確認しお互いの意見を共有するとともに、当該事例に対して実際に事故調査委員会から出された未然防止対策を確認し研修を終えました。





ワークショップの様子

研修に参加した先生方からは、「具体的でわかりやすく、明日からすぐに実践できる内容だった」「たくさんの事例を知ることによって、より一層理解が深まった」「学校教育の諸活動において、細心の計画、準備、注意をして指導していきたい」との感想をいただきました。

【取材を終えて】

今回は、学校側から県教育委員会を通じてJSCへ依頼があり実施した研修になります。ただ話を聞くだけでなく、ワークショップを通して教職員全体で情報を共有できたことは、今後に向けてたくさんの気付きにつながったのではないのでしょうか。

昨今、児童生徒等が犠牲となる災害が多数起きており、対応に苦慮している学校もあろうかと思えます。教職員の意識改革を図るためにも、ぜひ参考にいただければ幸いです。

最後に、お忙しい中、取材にご協力いただきました大高校長先生をはじめ、古川工業高校教職員の皆様、本当にありがとうございました。

【お願い】

JSCでは、事故防止の映像資料（DVD）や年4回、異なるテーマで作成している学校安全教材カード、パンフレットやハンドブック等がたくさんあります。短時間の教職員研修や授業でもご利用いただけますので、是非ご活用ください。

JSCが提供している事故防止情報を活用している先生方がおられましたら、学校安全Webなどで共有したいと考えておりますので、担当地域事務所にご一報ください。お待ちしております。

<参考資料>

- ・ [学校事故事例検索データベース](#)
- ・ [映像資料（DVD）](#)
- ・ 文部科学省「『学校事故対応に関する指針』に基づく詳細調査報告書の横断整理」